

# VERA

Tokyo Woman's Christian University



SPECIAL FEATURE

## 新学長と語らう

東京女子大学のキリスト教の精神とリベラル・アーツ

学長 森本 あんり

国際英語学科 国際英語専攻 3年 森澤 みちる / 人文学科 日本文学専攻 4年 佐藤 もりみ / 国際社会学科 国際関係専攻 2年 高橋 朋



VERA 座談会

# 新学長と語らう

## 東京女子大学のキリスト教の精神とリベラル・アーツ

2022年4月、森本あんり学長が就任しました。

森本学長は新渡戸稲造初代学長から数えて17代目の学長となります。

今回は本学の建学の礎である「キリストの精神」、

そして学びの柱である「リベラル・アーツ」をテーマとして、森本学長と3名の学生が座談会を行いました。

座談会では参加者それぞれの体験談も交え、終始和やかに、かつ真摯な対話が交わされました。

※以下敬称略



学長

森本 あんり

MORIMOTO Anri

1979年国際基督教大学人文科学科卒業後、東京神学大学、プリンストン神学大学を修了(Ph.D.)。1991年国際基督教大学牧師、準教授、教授を経て2012年より同大学学務副学長。2022年より現職。

教育を礎とする歴史ある学校ですが、皆さんは日々のキリスト教の学びから、どのようなことを受け取っていますか？

**高橋** 私は入学するまでキリスト教に触れてこなかったこともあり、初めのうちは宗教を学ぶこと自体に不思議な感覚がありました。ですが実際にキリスト教を学ぶうちに、そこには自分の生き方をより良く変えられるような教えがたくさんあると思うようになりました。例えば1年生の頃、受験が終わった解放感から少し気が緩んでしまっていた時期にキリスト教の授業で「家と土台」というお話を聞きました。「自分が思い描いている将来を実現するためには人生の土台となる今こそが大切」と気付くことができたのです。自分の生き方を見つめ直すきっかけとなったキリスト教との出会いに感謝しています。

**森澤** 入学してから気付いたことは、とにかく学生一人ひとりが皆、優しさにあふれているということです。困っている人がいれば皆で協力して助け合いますし、競争するのではなく、お互いに高め合って成長しています。東女ではそれがごく自然に行われていることが印象的でした。これはキリスト教の授業だけに限ったことではなく、大学生生活のあらゆる場面で感じることです。

**佐藤** キリスト教の学びから最も感銘を受けたのは「個」を重んじて尊ぶという精神です。人間は誰もが完璧ではないからこそ互いに補い合って生きているのだと感じます。だからこそ、キリスト教では一人ひとりの「個」が尊重されているのでしょう。神との時間の中で自らを振り返り、そして「個」としての自分を見いだしていくことで真の意味で他者を思い、仕えることのできる人物になれるのではないかと考えます。

できる人物になれるのではないかと考えます。

**森本** しっかりした「個」がないと、しっかりした「社会」は生まれません。佐藤さんが話してくれたように「個」の尊重とはそれ自体がとても大切な事柄であると同時に、それらの「個」が集まって作られる「社会」をより良いものにしていくことにもつながります。そして本学におけるキリスト教の意義として、私は「挑戦」という面があると思っています。例えば戦時中にはキリスト教系の学校に対して多くの圧力がかけられましたが、本学は「キリスト教によって立つ」という教育の信念を貫き通しました。また当時の日本では「良妻賢母」の育成が求められていましたが、本学では「女性であっても、誰かに付き従うのではなく、高い知性を備える自立した人間に育ってほしい」という信念が揺らぐことなく教育を続けてきました。目先の有用性を求める声や国家の要請に唯々諾々と従っていたなら、現在の東京女子大学はなかったでしょう。目先の分かりやすい貢献を超えて時代の本質を見ることこそ、大学がなすべき真の貢献ではないでしょうか。キリスト教の教えこそが、今日まで続くその「挑戦」を支える土台であると思います。

**高橋** 実は私は以前にも、東女は「戦時中も国家の圧力に屈さなかった」という記事を読んだことがあります。そして「東女の“曲げない”ところがいいなあ」と強く思っていました。そして逆風にも負けず「自立した女性を育てる」という方針を今の今まで貫き通しているところが「ああ、やっぱり好きだなあ」と思います。こういうお話をうかがうと、この大学に入学して良かったなと思います。

**佐藤** 確かに人として研鑽<sup>りんさん</sup>を続けるうちに結果として良い妻や母となることはあると思いますが、これまで「良妻賢母を目指して学ぼう」と思ったことはありません。

**森澤** まさに日々「目先の有用性」ではない「普遍的なもの」を教えていただいていると実感しています。そもそも私がこの学校を志望したのは海外留学と語学力の向上を目指してのことでした。そして入学後には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてのオンライン形式ではありましたが、留学を通じて飛躍的に語学力を伸ばすことができました。そもそもの学びの目的が留学メインだったため、1年生の頃は留学に直結しない文学などの学びについて「いったい将来何の役に立つんだろう？」とあまり意義を感じていませんでした。ですが今、シェイクスピアなどの文学にとっても興味を持っています。卒業後の進路といった限定的な範囲ではなくもっと先々の将来について視野が広がり、人生を通じて学べることを見つけられたと感じています。文学からは心が栄養をもらっているような気がします。



国際社会学科  
国際関係専攻2年

高橋 朋

TAKAHASHI Tomo

新潟県立  
新潟高等学校卒業。



国際英語学科  
国際英語専攻3年

森澤 みちる

MORISAWA Michiru

高知県・私立高知学芸  
中学高等学校卒業。



人文学科  
日本文学専攻4年

佐藤 もりみ

SATO Morimi

東京都・私立東京女学館  
中学校・高等学校卒業。

一人ひとりの「個」を尊重し、  
「挑戦する知性」を支えるキリスト教教育

**森本** 私はこのたび学長として東京女子大学に就任しましたが、25年ほど前に本学で非常勤講師を務めていました。ですので、このキャンパスには以前からなじみがあります。美しいキャンパスは本学の特長の一つですが、私は日々真剣に学びと向き合う皆さんの姿勢にこそ、昔も今も変わらない「東女らしさ」があると感じています。翻って私自身の大学生活は、勉強はもちろんのこと演劇活動や剣道の練習、そして友人との交流などで寝る間もないほど忙しいものでした。キリスト教の洗礼を受けたのも大学時代のことです。この東京女子大学も、キリスト教



## 「新しい学びと出会い、新しい自分と出会う」 東女のリベラル・アーツ

**森本** 「心が栄養をもらっている」とは言い得て妙ですね。実利だけを求めて勉強するとしたら、人間は貧しいものになってしまうでしょう。一見役に立たないと思われるような学びを大事にするところに文化の尊さがあると思います。そして今の森澤さんの話には、本学の学びの柱である「リベラル・アーツ」の考えが含まれています。皆さんは日ごろの学びの中で「リベラル・アーツ」を意識していますか？

**学生一同** あまりはっきりとは意識していませんでした。

**森本** 一般的にリベラル・アーツとは「学際的な幅広い学び」のように説明されます。ですがリベラル・アーツの目的は博識になることではありません。そうではなく「学びを通じて、過去の自分とは異なる新しい自分に出会うこと」がリベラル・アーツの本質だと思います。つまりリベラル・アーツとは「学んだ自分自身が変化する学び」とも言えます。そして「出会い」というのは自分では計画できないものです。例えば森澤さんは英語力を高める目的で入学してきたのに、思いがけなく文学と「出会った」。この想定を超えた出会いこそがリベラル・アーツであり、大学とはそういう出会いの場であるべきなのです。

**森澤** 本当に人生は何が起こるか分からないというか、自分でも不思議な思いです。

**森本** そうでしょう。私は高校在学中に大学で何を学ぶかを決めることに無理があると思っています。例えば言語学や宗教学などは高校の授業では扱わないので、受験の時点ではまず専攻の選択肢には挙がらないでしょう。就職先までを見越して大学の学部を選んだとしても、入学後にさまざまな学びに触れるうちに人生を変えるような「出会い」が起きるかもしれない。むしろ大学の4年間はそのためにあると思います。ですから大学では、進路や専門の変更が自由になされる環境が望ましい。世界の主な大学の流れでは皆リベラル・アーツを踏まえて専門課程に進みます。東京女子大学はこうした意味でリベラル・アーツの王道を歩む大学です。

**高橋** 私はまだ2年生ということもありリベラル・アーツの学びによって自分が変化したという実感はあまりないのですが、ただ自分が予想していたより「専門外の学びも面白い」という発見があります。

**森澤** リベラル・アーツという観点から振り返ってみると、先ほどの文学との出会いに加えて私には「ジェンダー学」との出

会いがありました。私は高校時代までジェンダーについて学ぶ機会がなく、これまでそういった視点も持っていませんでした。ですがジェンダーの問題は今、日本や世界が抱えているさまざまな課題とも関わりがあることを知り、専攻やその他の分野を学ぶ上でジェンダー学の視点が役に立っています。文学やジェンダー学以外にも「人類の誕生と進化」といった理系科目も学んでおり、さまざまな分野からエッセンスを取り入れることで本来の専攻の学びも深まっていることを感じます。

**佐藤** 私は日本文学を専攻しています。典型的な文系タイプだったため理数系には苦手意識がありましたが、「宇宙の科学」という授業を取ったところ予想外に面白くて驚いています。これまで私は学びを「文学」という狭い枠の中だけで捉えてきたように思います。例えば「文学の中では、近現代文学より古代文学の方が好きだな」といった感じです。ですが今回、専門分野とは対極にあるような「宇宙の科学」の世界を知ったことで、専攻する日本文学についてもこれまでとは違う角度から発見していくことができました。

**森本** 皆さんのお話を聞いていると、2年生、3年生、4年生と学びが深まるに従って皆さんの人生が展開していく様子が伝わってきます。リベラル・アーツなどを通じたさまざまな出会いによって、予想もしていなかった方向に自分自身が広がっていく——その広がりが大きく育ち続けていることを感じます。🌸  
(聞き手 渋谷麻子)

### 森本学長から

リベラル・アーツは特定の目的に結びつきません。だからこそ、どんな目的にも役立ちます。特に、変化が激しく将来の予測ができない時代にこそ、その真価を発揮します。現在世界を覆い尽くしている新型コロナウイルスや、ヨーロッパにおける戦乱などを何年も前から予想できた人は誰もいなかったでしょう。目先の有用性に捉われず、本質的な眼を養うリベラル・アーツの学びは、今こそ必要とされています。

これから先、皆さんの人生にも何が起こるか分かりません。ですから、どんなことが起きても腹を決めて、自信を持って決断してください。そのために、東京女子大学のリベラル・アーツを通じて「選び取る底力」や「自信」といったものを皆さんに得てもらいたいと願っています。大学生活の中で皆さんは思いもかけない「出会い」を経験するでしょう。かけがえのないその瞬間のために、どうぞ心を開いておいてください。

## 前学長挨拶 *Message*

### 創立の理念とともに

前学長

茂里 一紘 MORI Kazu-hiro



私が学長に就任したのは創立100周年の年でした。創立の理念は自立した女性の育成を目指す高等教育であり、キリスト教の精神に基づく人格教育、そして「高等なる常識」を養うためのリベラル・エデュケーションでした。キリスト教の精神を表す「犠牲と奉仕」を校章としました。記念式典の参列者に私は創立の理念と100年間で培われた学風を誇りと愛着を持って話すことができました。

社会が変わっても、創立の理念には今日の意味があります。女性の社会進出と男女共同参画が求められる中、東京女子大学での4年間は若い女性が互いに研磨しあうかけがえのない学びと訓練の時空間となります。東京女子大学への求人は自立する女性を求めるものです。寄り添うことが基本となる多様性と包摂性を求める社会では、「犠牲と奉仕」は人間としての基本的規範となります。予測困難で変化の激しい社会では、「高等なる常識」のためのリベラル・アーツ教育はいよいよ重要です。使命達成には教育内容と方法の不断の工夫と改革は不可避です。

「力強い御業を来るべき世代に語り伝えさせてください」(詩篇71:18b)。学長の任を決意させた聖書の言葉です。来るべき世代に語り伝える力強い御業は、私には創立の理念でした。在任中、幾度も東京女子大学で学んでいることの意味と意義を学生に語ることができました。

学生、教職員そして同窓会の皆さま、素晴らしい出会いをありがとうございました。🌸



前副学長

人文学科 日本文学専攻 教授

和田 博文

WADA Hirofumi

茂里 一紘前学長に贈る言葉

### アジアへのまなざし

2021年10月17日の『朝日新聞』に掲載された、小説家の池澤夏樹さんとの対談で、東京女子大学の次の100年を問われた茂里先生は、「恩返し」ならぬ「恩送り」という言葉を使われた。北米のキリスト教諸教派の援助で創立し、100年を迎えた本学が、次の1世紀はアジアの女子教育に貢献したいという思いからである。大学のホームページの「ASIA forum」というウェブページは、先生のその思いに基づいて誕生した。それは一方的に「恩」を送るのではなく、アジアの大学と「協働的広場」を共に作ることを意味している。記憶に残る茂里先生のもう一つの言葉は「バトン・リレー」。学長の任期中に実現しなかった構想でも、しっかりバトンを渡せば、次の走者がレースを作ってください。先生に4年間の感謝を申し上げると共に、本学の今後を見守っていただきたいと思います。🌸



# Career

## TWCU OG TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆ Vol.7

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

### 自由と責任を 両輪に抱える女性として

東日本大震災の被災地である、岩手県釜石市で震災復興・地方創生に関わる活動をしています。肩書は、「地域づくりコーディネーター・プロジェクトマネージャー」です。複数の組織に所属し、企画を考え、資金調達から運営、また会計までのひと通りを行います。具体的なプロジェクトは以下の3点です。

- 1 釜石の防災ノウハウをインドネシアのアチェ州へ共有する国際協力プロジェクト
- 2 釜石の事業者による、地産地消の再生可能エネルギー「波力」発電の技術開発事業
- 3 暮らしの中で世界とつながる新規事業開発

根底には、「文化や言語・慣習の異なる国や地域の人々、また途上国や被災地といった自らの意思に関係なく困難な状況にある人々と共に、自分たちを取り巻く暮らしをより良くするための仕事をしたい」という思いがあります。私の場合ワークキャリアとライフキャリアが密接しており、岩手県とのつながりも震災の被災地へボランティアとして足を運ぶようになったのがきっかけです。現地をよりよく知って貢献するために当時勤めていた会社を辞め、岩手県盛岡市の中間支援組織で活動を開始しました。それから5年ほどたち、復興10年が見えてきて支援の在り方も変わり、地域創生やSDGsが叫ばれる時代になってきました。被災地現地で事業を創る活動をしたい、自分の志すものを自分の責任の下で挑戦してみたい、と考えるようになり、法人の立ち上げや運営に携

地域づくりコーディネーター・  
プロジェクトマネージャー

**細江 絵梨さん**

HOSOE Eri

2009年現代文化学部地域文化学科卒業。宇野ゼミ。大学卒業後、化粧品メーカーに入職。東日本大震災の被災地ボランティア参加を契機として、退職後岩手県盛岡市の支援組織で活動を始める。現在、一般社団法人 walavie 代表理事、一般社団法人根浜 MIND 副事務局長、株式会社マリンエナジー事務局所属。



わることとなりました。

振り返れば、グローバル化・多様化する社会に生きる意識が自然と身に付き、挑戦することができる自分があるのは、東京女子大学でのリベラル・アーツ教育で4年間過ごしたからこそと言えるかもしれません。前向きに明るく、主体的に責任感を持って生きていた友人たちも多く、良い環境で学ぶことができたな、とふと思うことが多々あります。仕事でもプライベートでも、自分の目標に向かって全力で努力していく友人たちからは、今でも刺激を受けています。「自由と責任を両輪に抱える女性」、その生きざまこそが、東京女子大学らしさだと思っています。🌸



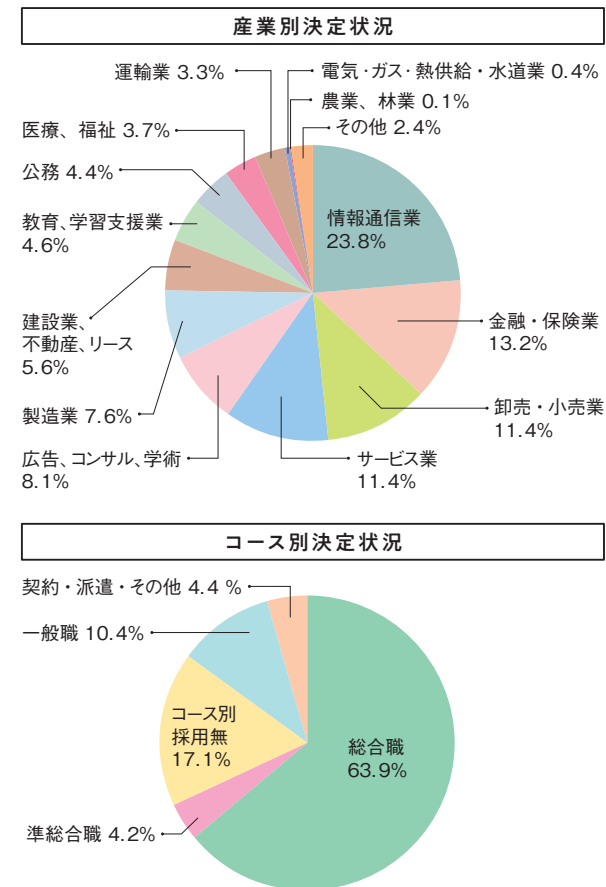
## 2021年度就職決定状況

2022年3月卒業者の就職率は99.4%(前年99.1%、以下同じ)でした。大卒求人倍率が1.50倍(1.53倍)と微減している中、本学学生については前年を上回る高い就職率となりました。

情報通信業、金融・保険業、サービス業が半数を占める状況は例年と同じで、情報通信業は毎年増えて23.8%(23.2%)と4年連続トップです。AIやサイバーセキュリティなど、新たな社会インフラへの関心がうかがえます。また総合職は63.9%(54.3%)と、約10ポイント上昇しており、幅広い働き方でキャリアを自ら切り拓く学生が増えています。

就職活動のオンライン化も定着し、学生にとってはイベントや選考がオンラインとなる戸惑いよりも、場所を問わない、交通費がかからないなどの利点が勝るようになりました。今後は対面とオンラインのハイブリッドへと変化することが予想されます。キャリア・センターでは、時代に即した支援に努めてまいります。

※大卒求人倍率はリクルートワークス研究所より



## 今年もやります! 夏休み5日間の課題解決型ワークショップ 「ワタシゴトキャリアラボ」

2020年度から継続して開催しているこのワークショップは、1・2年生を対象に、企業の実例に基づいたワークに取り組むことで、今後のキャリアを自分事(ワタシゴト)として思い描き、行動につなげることを目的としています。

昨年度はSDGsを共通テーマに掲げ、IT、不動産、建設といった事業の異なる3社にご協力いただきました。学生55名が各社のワークにチームで取り組み、「シゴト」への理解を深め、また最終日の振り返りの中で「自分(ワタシ)」の強みや変化といった新たな気付きを得て、「明日からの目標」を宣言しました。「新たな自分を発見した」「今やっていることにもっと全力で臨もうと思った」など前向きな感想が多く、参加満足度は98%と高い結果になりました。

今年度は昨年度に引き続き電通国際情報サービス(IT)に加え、新たにJCBトラベル(旅行)、タキヒヨー(繊維/アパレル専門商社)の3社にご協力いただき、「ワタシ×シゴト」を考える新たな機会を提供します。



2021年度の詳細は公式サイトからご覧いただけます

## 2日間の面接対策集中講座を実施!

2022年2月に短期集中型総合面接対策講座「起死回生!面接対策2Days」をオンラインで開催しました。

対策不足により今後の活動に不安と悩みを抱える3年生にとって「起死回生の一手」となるよう、就活マナー、グループディスカッション、個人・集団面接、役員面接の実践練習を2日間に凝縮して集中的に行い、自身の強みの確認と不安の払拭につなげます。講師はキャリアカウンセラーと企業の採用担当者延べ30名が務め、複数の視点からフィードバックを行いました。

コロナ禍の就職活動はオンライン化などで大きく変化しましたが、自分がどんな人間で何をしたいのかを伝えて縁をつなぐ、その根本は変わりません。当セミナーの受講をきっかけに自分自身と向き合い、選考の場で十分に力を発揮できるようになることが期待されます。



# Students

## ばばたけ東女生!

自ら「問い」を立て、学びを深め、  
学ぶことを楽しむ学生の姿を紹介します。

国際社会学科コミュニティ構想専攻では、テーマを決めて調査研究を行い、成果発表する演習形式の授業を行っています。  
今回は2021年度の矢ヶ崎紀子ゼミ「2年次演習(コミュニティ構想II)」の中で、  
伊豆大島を調査したグループに、活動内容を語ってもらいました。

国際社会学科 コミュニティ構想専攻 3年  
**笠松 環** KASAMATSU Tamaki  
**土門 愛実** DOMON Manami  
**山内 香味** YAMAUCHI Kami  
**有松 陽花** ARIMATSU Haruka  
**後藤 玲奈** GOTO Reina

2年次演習(矢ヶ崎ゼミ)後期のテーマは「地域に役立つ旅行商品づくり」です。私たちは、女子大生をターゲットにした伊豆大島への旅行商品を提案しました。コンセプトを「一人旅による自己成長」とし、商品づくりに向けて、文献調査、ヒアリング調査、現地調査を実施しました。現在も、伊豆大島の方々と共同で商品化に向けて活動中です。

伊豆大島の旅行商品は、四季に合わせた4つのプランで構成しています。実は、このプランは当初案から大きく変更しました。最初はさまざまな調査から私たちに伊豆大島の魅力を詰め込んだ仮プランを作っていましたが、文献調査を通して過疎化に苦しむ伊豆大島の実情が分かりました。その後、大島観光協会や伊豆大島ナビを運営している方へのZoomでのヒアリング調査を行い、私たちが見つけられていなかった観光スポットの他、観光需要の繁閑差が大きいこと、観光客を受け入れるキャパシティに限度があるなどの課題も学びました。これらの学習を経て、交流人口を増やすことで伊豆大島の課題を解決すべ



プラン案についてアドバイスをいただきました

### 地域に役立つ旅行商品づくり

く、地元の方のおすすめの観光スポットも含めた新たなプランを作成しました。そして、実際にそれが実現可能なかを検証するため、伊豆大島に赴きました。

この調査旅行を通して、私たちは多くのことを学びました。最も大きな学びは「提案が実現可能かどうか、実際に検証することが必要」ということです。伊豆大島には若者に魅力的な場所が多くあり、地元の若者たちが島を盛り上げるさまざまな活動をしていることを、現地に行って初めて知りました。東京都島嶼部で島を盛り上げる活動をしている方々から

も具体的な助言をいただきました。調査旅行の後には、ターゲットである女子大生の旅行ニーズを把握す



伊豆大島の椿の壁画

るためにアンケート調査も実施しました。このような経緯から、仮プランを大幅に変更し、四季に合わせた4つのプランへと改善させたのです。

これからも、現メンバーと共に、矢ヶ崎ゼミで旅行プランの商品化実現を目指します。「一人旅に興味があるけれど一歩踏み出せない女子大学生」がターゲットなので、女子大生ならではの視点を大切に、現地の方々のお力添えをいただきながら、旅行プランをさらに磨いていきます。最終的な目標は伊豆大島の方々に、私たちの旅行プランを販売していただくことです。皆さまに良い報告ができるように、メンバー一同全力で励みます。🍀

※調査旅行は感染症拡大防止に配慮して行われました。



### 【今号のテーマ】 私のおすすめ授業

4月から授業も対面中心に戻り、キャンパスにも学生の姿が多く見られるようになりました。新年度を迎えてどのような学びをしているのか、学生記者が各々のおすすめ授業についてお伝えします。  
※開講授業および授業内容は年度・学期によって異なります。

私のおすすめの授業は「**先端トピック概論(コミュニケーション)B**」です!

この授業では専門の先生からさまざまなデザインについて教えていただき、授業の最後にミニワークショップという形で自分のアイデアを紙に書き出して、アプリに載せてみんなで共有します。そしてそのアイデアを翌週の授業で互いにフィードバックします。私は情報デザインに興味があるので、同じようにデザインに関心を持つ人にはとてもぴったりの授業だと思います。

(コミュニケーション専攻 1年 桜井 彩音)

私がおすすめする授業は、総合教養科目の「**こころと社会**」です。この授業では「対人関係が深まっていく仕組み」を社会心理学の観点から学びます。心理学と聞くと難しく感じますが、「他者を説得する方法」「写真写りが悪いと感じる理由」など、日々の生活と結びついた内容も多くあります。普段心理学を学んでいない方にもぜひ受講していただきたいです。

(コミュニケーション専攻 2年 赤坂 帆美)

私のおすすめ授業は、「**Japanese Culture & Literature**」です。この授業は、ネイティブスピーカーの先生が担当するため、授業は全て英語で行われます。この授業の面白いところは、元々日本語で書かれた文書がどのように英語に翻訳されているのかを比較することができることです。今まで私たちが国語として習ってきたものを、英語から学ぶことで、より視野を広げることができます。特に、学びにおいて新しい刺激が欲しいという人はぜひ受講してみてください!

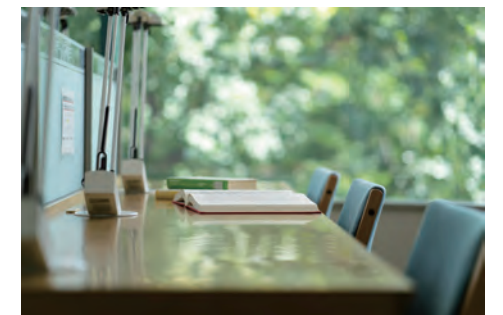
(日本文学専攻 4年 佐々木 あおば)

私のおすすめ授業は「**英語教育入門演習**」です! 日本とそれ以外の国での授業スタイルの違いや学生の英語学習モチベーションに関して話し合いを通して理解を深め、最後にはグループごとに模擬授業を発表します。英語を教える側・教わる側の双方の視点から英語教育のあり方について学ぶことができ、とても面白いです。「教えることに興味がある」「英語教育に対する理解を深めたい」という方はぜひ受けてもらいたいです!

(国際英語専攻 2年 PN. シロ)

私がおすすめする授業は「**国際英語と女性の生き方**」です。この授業では国際的に活躍する方々からお話をうかがったり、インタビューに答えていただいたりしました。これらの活動を通して、自身の将来についてのビジョンが明確になりました。また、グループでの活動が多いため、学生同士の交流を深めることができました。この授業の受講を通して自身の今後のキャリアに生かしていきたい人に特におすすめしたいです!

(国際英語専攻 2年 杉浦 優衣)







第6回

## 東女生と考える戦争と平和2022

歴史文化専攻 大江ゼミ

### 「国のために戦うか」国際世論調査から

「13.2%」。この数値は「もし戦争が起きたら国のために戦うか」という「世界価値観調査」(2017~2020年)に対して「イエス」と答えた日本人の割合である。ついで「イエス」が低いのがリトアニアの32.8%であることを鑑みれば、この数値は国際的に見て大変低いことが分かる。

本年度総合教養科目「現代史の諸相」の初回では、この「13.2%」という意識は、戦後日本における歩みの何によって構成されているのだろうか？という問いかけを行った。これに対し受講生からは、自分たちの受けてきた平和教育を振り返ると納得できる数値であるという意見の他、「国や政治への無関心」「死にたくないという恐怖があることももちろんだが、これまでの人生で戦争を体験したことがなく、戦争をどこか他人事のように感じている」「ウクライナ戦争が起こり、ネットやテレビで戦場のリアルな映像が大量に流れている今、同じ質問を日本人にしたら、結果は変わるかもしれない」「国のために同様に悲惨な経験をしているベトナムの『イエス』は「96.4%」であることへの謎」「自分ならどう答えるか」など鋭い反応が次々に上がった。受講生それぞれが、ウクライナで起きていることを視野にいれながら、自身の経験に引きつけ

て、今、戦争を真剣に考えようとしていることに私も今までにない緊張感を覚えた。

### 自分ならどう答えるか

切実な反応を受け、皆でこの難しい問いに挑むことになった。そして受講生はこの難しい問いをしっかりと受け止めてくれた。受講生の回答は戦う4%、戦わない61%、どちらとも言えない35%という結果であった。さらにこのような意識を好ましいかと思うか尋ねたところ、好ましい34%、好ましくない4%、どちらとも言えない57%という数値が出た(2022年4月25日5限、無記名Zoom投票)。その理由はなんだろう。「自分たちを守るためには戦うしかないという状態になることが戦争を肯定化していくと思う」「自分を『犠牲』にして国を守るという考え方は古い。また、自分一人で生きていくことも大変なのに、国まで責任持って、自分の命をかけて、戦うべきだ———と言うことは、結果的に『なんのために?』という疑問が生じる。国の勝利が自分の幸せにはつながらない。私は、戦争が怖いし、皆を傷つけるひどいことだと考えている。国が戦争で勝つより、国民の安全保障、保険や経済的、教育的支援をしてくれた方がうれしい」「私は生まれてから20年間日本で過ごしてきて、本当に日本に生まれることができなくて良かったと感じている。だが、この思いを国に危機が迫っているときに返そうとか、『お国のために戦うことは偉い』という気持ちに直結しない」「真っ先に安全なところへ逃げることができるのなら周りの人とともに逃げたい。しかし、その考え方を言えるのも今まで日本が侵略されてこなかったから、他人事のように考えてしまっているからであって、本当に侵略されてしまったらそんなことも言えないのかもしれない。だからこそ、他国に頼らない防衛力というのが今一番必要だと考える」「私は戦争と向き合う際にこの恐怖心を抱えながら、どう向き合うかということが大切

大江 洋代

人文学科 歴史文化専攻  
准教授

東京都生まれ、東京女子大学文理学部史学科卒業、お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了。博士(人文科学)。麻布学園中学校非常勤講師、自由学園女子高等科非常勤講師、国立公文書館研究員、国立図書館政治史料課専門調査員、宮内庁書陵部研究官等を経て現職。

になるのではないかと思います。怖がって問題を無視してしまうのは好ましくないが、むしろ怖いからこそどう向き合うかを考える必要があるのではないかと思います……。全て紹介したいのだが残念ながら紙幅が尽きた。

### 歴史を踏まえ、時代に即した新たな平和意識を創る

筆者の歴史学における研究分野は幕末以降の陸軍であり、これまでも「現在の戦争観」と連環させて考察することを心がけてきたつもりであった。しかし「戦争に向き合い、防ぎたい」との受講生たちの切迫した反応から、「今だからこそ、みんなで議論することで、近代から現在までの戦争・軍事について歴史的に考えながら今の時代に対応した新たな平和意識—戦争を防ぐ—を創り出せないか」という考えに至った。その際、既に蓄積された歴史研究の成果として、戦後の戦争観とは①悲惨な体験が支える平和意識、②国際安全保障環境、③国内体制が相互に分かちがたく絡まり合って形成されているという方向から考えていくことを想定してはいる。しかし力ある受講生の力を借りながら、これ以外の視角が生まれる可能性があることをお伝えしたい。

### 身近な方々の従軍経験を読み解く—軍歴簿から—

運動してゼミ(文献資料演習)では、ご家族の許可を得られたゼミ生に限って、従軍経験のある親戚の軍歴簿を取得し、分析するというかたちで戦争体験を引き継ぐ実践を行おうとしている。軍歴簿は、陸軍は各都道府県、海軍は厚生労働省に所蔵されており、親族が申請すると取得できる。今の学生が、間接的にでも血縁者からの体験が伝わる最後の世代となる可能性が高い。主体性を持って戦争と向き合う方法を皆さんと考えていきたい。

## 東京女子大学の リベラル・アーツが深化します

2022年4月、東京女子大学のリベラル・アーツを深化させる新たな知の拠点、3つのセンターが誕生しました。また、全専攻の学生が履修可能なデータサイエンス副専攻が始まりました。

### 【3センター始動】

#### ● 英語センター

グローバル社会に対応した国際共通語としての英語力を養成するために、全学横断的な英語運用能力の向上を図る教育活動の発展および研究を継続的に行うことを目的として、英語センターを設置しました。具体的には、英語教育の実証研究に基づいた全学の英語カリキュラムの策定、英語の正課授業を補完する課外活動の企画および実施などを行います。

#### ● AI・データサイエンス教育研究センター

数理・データサイエンス・AIに関わる教育および研究を推進します。情報関連技術の進歩に伴う急激な社会変化に対応できる人材の育成を目指します。

#### ● 教育・学修支援センター

(CTL : Center for Teaching and Learning)

ICT(情報通信技術)に関する教育・学修サポート、各種ワークショップの開催、学修スペースの提供などを通して、ICTを活用した教育活動の発展および学習支援を継続的に行います。



### 【データサイエンス副専攻スタート】

これからの社会ではさまざまな局面においてデータの活用が必須であり、統計学、情報処理は社会的に大きな力を持つようになってきました。この副専攻では、文理融合を軸として多様なデータ分析の方法を理解するだけでなく、データから有益な情報、知見を自ら引き出す分析力を身に付けます。



詳細は特設ページをご覧ください

### 新刊紹介



『アカデミズムとジェンダー—歴史学の現状と課題—』  
(歴史学研究会 編、績文堂出版、2022年)

教員や学芸員を目指す学生さんもうらっしゃると思います。いまそうした女性研究者が、世の中の働く女性同様の「生きづらさ」を抱えていることが問題となっています。その現状と歴史的背景、解決策を、仲間と共に考察しました。少しでも全ての女性の「生きづらさ」が払拭されることを願って。



## 東京純心女子中学校・高等学校、国府台女子学院高等部、 恵泉女学園中学・高等学校との高大連携協定の締結について

2022年5月に、東京純心女子中学校・高等学校および国府台女子学院高等部、6月に恵泉女学園中学・高等学校と高大連携協定を締結しました。

この協定は、相互の交流と連携を通じて、中学生・高校生の知的好奇心を育てて学ぶことへの熱意を涵養するとともに、大学の求める学生像および教育内容への理解を深め、中学教育・高校教育・大学教育の質的連携を

通じて、新たな人物養成とそのための教育的可能性の開拓を目的とするものです。

今後、この協定をもとに、各校との教育に関わる交流・連携を強化していきます。

今回の協定締結により、本学の高大連携校は9校となりました。

## 高大連携協定先との取り組み

東京女子大学はこれまで9つの高等学校と高大連携協定を結び、協定先と共にさまざまな活動を実施しています。今回はいくつか取り組みの例をご紹介します。

捜真女学校中学部・高等学部では、高校2年次に総合学習「ポスターセッション」を行っています。関心のある社会問題についてポスターを制作し、発表後、観覧者からの質問に対応するプロジェクトです。2022年2月、柳原伸洋准教授(人文学科歴史文化専攻)、根本和幸准教授(国際社会学科国際関係専攻)が参加し、観覧・講評を行いました。環境、貧困、文化、経済など多様なテーマが取り上げられ、教員との対話を交えて考えを深める機会となりました。

2022年3月には、桐朋女子高等学校の1年生が本学へ来訪する見学会を実施しました。在学生在が受験期の思い出や大学での学びを語るプレゼンテーションや、学生広報スタッフによるキャンパスツアーへの参加を通じて、大学生活をより具体的にイメージできるようなプログラムとなりました。

その他、オンラインおよび対面での教職員の派遣やキャンパス見学受け入れなど、相互交流を図る取り組みを多数進めています。



ポスターセッションの様子

## 『東京女子大学同窓会の100年』刊行

A5判  
販売価格1,500円(税込・送料別)

同窓会100周年記念事業の一環として、2016年に同窓会100年の歴史を編さん・編集するための100年史編集委員会を設置しました。それから5年余りの歳月をかけ、同窓会に保存されている会報や学報、理事会議事録、会計報告などを検証しました。また同窓生にお話をうかがうために遠方に足を運んだこともありました。

このたび、同窓会活動開始から戦前、戦後、多様性の時代と言われる現在に至るまでの100年間の歴史を、資料と共に楽しく読める『東京女子大学同窓会の100年』という形で上梓しました。来し方を振り返り、さらなる活動の糧となりますよう、多くの方に手に取っていただければ幸いです。購入をご希望の方は同窓会事務局(p.15参照)までお問い合わせください。



## 第5回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト報告

2021年度で5回目を迎えた「東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト」が実施されました。今回も全国の高校生、大学生、社会人から多数の応募がありました。書類審査を経て、2022年3月19日に最終審査会がオンラインで開催されました。事前提出されたビデオレター、当日のプレゼンテーション・質疑応答により最終審査が行われ、起業部門からは、東女賞1件、優秀賞2件、奨励賞1件が、アイデア部門からは、東女賞1件、優秀

賞1件、奨励賞7件、優れた高校生のプランに授与されるVERA賞に1件が選ばれました。これらの審査結果が発表され、審査員からは全ての受賞者のプランに対してコメントが送られました。2021年度は、身近な社会問題の解決と事業性との両立を目指すプランが多い結果となりました。今後も多くの熱い思いが込められたプランの応募があることを願っています。

## 第6回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト 募集要項

2022年度は以下の通り実施します。

### 1. 応募資格

高校生以上の女性で、次の①・②のどちらかに該当する方

- ①新たに起業をする意思のある方、もしくは今回のアイデアを実行する意思のある方
- ②すでに事業を営んでいる方でこれから新たな事業展開をする方、もしくは開始して間もない方

### 2. スケジュール

- ①募集期間：2022年9月1日(木)～9月30日(金)
- ②書類審査結果通知：2022年10月28日(金)
- ③最終審査会：2022年12月4日(日)

### 3. 応募部門等

- ①起業部門：  
事業企画・資金計画が具体化されたプランニング
- ②アイデア部門：  
資金計画には至らないが、具体化されたイメージがある斬新なアイデア

### 4. 表彰

各部門により、表彰状のほか、賞金・記念品を贈呈します。

### 5. 応募書類送付先

東京女子大学教育研究支援課  
twcu-bpc@gr.twcu.ac.jp



詳細は東京女子大学公式サイトをご覧ください。

[https://www.twcu.ac.jp/main/topics/2022/0524\\_01.html](https://www.twcu.ac.jp/main/topics/2022/0524_01.html)

REPORT

## 2022 年度事業計画および予算の概要

事務局長  
安藤 由紀美

2022年度の事業計画および予算を本年3月の理事会で決定し、公表いたしました。詳細は、本学公式サイトでご覧いただけます。

### 【事業計画の概要】

新たに「英語センター」「AI・データサイエンス教育研究センター」「教育・学修支援センター」を発足させます。学習環境の充実を図り、新しい価値を創造する力を養い、未来を築く推進力を持った人材を育成してまいります。

「東京女子大学 SDGs 宣言」に基づき、学生と教職員が協働して、正課教育・課外活動・社会連携において、持続可能な社会実現のための取り組みを積極的に推進します。また、デジタル化の推進、アクティブラーニング教室の増設など教育研究環境の整備を進めてまいります。



2022年度  
事業計画

### 【予算の概要】

2022年度は、新たな教学改革推進への予算充実を図りました。また、キャンパスの施設・設備の拡充整備、高大接続への取り組み強化、高等教育無償化などの大学を取り巻く教育環境の変化やグローバル化、デジタル化などの社会環境の変化に対応する予算を計上しました。

事業活動収支予算は、事業活動収入5,091百万円、事業活動支出5,459百万円。当年度収支差額は基本金組入前で△367百万円。741百万円の基本金組入後で1,108百万円の支出超過の見込みです。これに前年度繰越収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は789百万円で、その大半は、過年度に受け入れた奨学金寄付金です。



2022年度  
予算

NOTICE

## 2023 年度現代教養学部 一般選抜・総合型選抜入試日程

入試方式	学科	専攻	出願期間	試験日	合格者発表日
個別学力試験型 英語外部検定試験 利用型	国際英語	国際英語	Web 出願 登録期間 1/3(火)～1/18(水)23:00 まで 必要書類提出期限 1/18(水)消印有効	2/3(金)	2/13(月) 11:00
	人文	歴史文化			
	国際社会	経済学 / コミュニティ構想			
	心理・コミュニケーション	コミュニケーション			
	人文	哲学 / 日本文学			
	国際社会	国際関係 / 社会学			
大学入学共通テスト 3教科型	全学科・全専攻		Web 出願 登録期間 1/3(火)～1/13(金)23:00 まで 必要書類提出期限 1/13(金)消印有効	大学入学 共通テスト 1/14(土) 1/15(日)	個別試験なし 2/8(水) 13:00
			Web 出願 登録期間 1/3(火)～1/24(火)23:00 まで 必要書類提出期限 1/24(火)消印有効		
大学入学共通テスト 5科目型			Web 出願 登録期間 1/3(火)～1/24(火)23:00 まで 必要書類提出期限 1/24(火)消印有効		
英語Speaking Test 利用型	国際英語	国際英語	Web 出願 登録期間 1/3(火)～1/24(火)23:00 まで 必要書類提出期限 1/24(火)消印有効	大学入学 共通テスト 1/14(土)	個別試験 2/13(月) 13:00
3月期(専攻特色型)	人文	哲学	Web 出願 登録期間 2/20(月)～2/28(火)23:00 まで 必要書類提出期限 2/28(火)消印有効	大学入学 共通テスト 1/14(土) 1/15(日)	3/10(金) 11:00
	国際社会	国際関係			
	数理科学	数学 / 情報理学			
	国際英語	国際英語			
	人文	日本文学 / 歴史文化			
	国際社会	経済学 / 社会学 / コミュニティ構想			
3月期(国公立併願型)	全学科・全専攻			個別試験なし	
総合型選抜 知のかけはし入学試験	全学科・全専攻		9/1(木)～9/12(月) 9/12(月)消印有効	第一次選考結果発表 9/30(金)10:00 第二次選考 10/15(土)	11/1(火) 10:00

REPORT

## ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。  
ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

NOTICE

## 新任教員紹介

森本 あんり	学長
Klassen, Kimberly	国際英語学科 国際英語専攻 准教授
鈴木 栄	国際英語学科 国際英語専攻 特任教授
鶴田 知佳子	国際英語学科 国際英語専攻 特任教授
五十嵐 成見	人文学科 哲学専攻 准教授
酒井 一臣	国際社会学科 国際関係専攻 教授
長谷川 克之	国際社会学科 経済学専攻 特任教授
関村 オリエ	国際社会学科 コミュニティ構想専攻 教授
藤稿 亜矢子	国際社会学科 コミュニティ構想専攻 教授
初山 真人	国際社会学科 コミュニティ構想専攻 特任教授
山口 慶子	心理・コミュニケーション学科 心理学専攻 特任准教授
Perry, Simon	英語センター 嘱託講師
仲谷 佳恵	教育・学修支援センター 特任講師

※2022年4月1日付

NOTICE

## 新任評議員

【評議員】茂里 一紘 2022/3/11～2025/3/10

### 同窓会からのお知らせ

同窓会主催行事に在校生、ご家族のご参加をお待ちしています。  
イベント、講座をやむなく中止・延期する場合は同窓会ホームページにてお知らせします。  
開催の有無を必ず確認の上、ご参加ください。  
お申し込み詳細は同窓会ホームページで。

Tel.03-3395-4448 Fax.03-3395-0084  
https://www.twcu-alumnae.jp/  
E-mail: office@twcu.jp  
(9:00～17:00開館 日・月曜日、祝日休館)

前期キリスト教講座「木村熊二の〈回心〉—『旧幕遺臣』のキリスト教—」  
講師：下山嬢子 東京女子大学評議員・大東文化大学名誉教授  
(1971年文理学部日本文学科・1975年大学院文学研究科日本文学専攻卒)  
7月7日(木) 13:30～15:00 オンライン併用  
会費：1,400円 学生600円

サロンコンサート「女優として、そして一人の女性として…」  
お話：山本みどり(1978年短期大学部教養科卒)  
10月8日(土) 13:30～15:00 オンライン併用  
会費：2,000円 学生600円

後期キリスト教講座「イエスによる『祈り』の教え」  
講師：遠藤勝信 東京女子大学教授  
11月10日・24日(木) 13:30～15:00 オンライン併用  
会費：全2回2,300円、1回1,400円 学生1回600円

クリスマスリースを作る会  
講師：大久保あや子(1978年文理学部日本文学科卒)  
12月3日(土) 13:30～15:30  
会費：未定

★いずれも72年館での開催予定です。





### 表紙の場所

VERA広場。正門を入ると目の前に広がる芝生の広場です。本館、6号館、7号館といった、アントニン・レーモンドが設計し文化庁登録有形文化財に登録された建物群に囲まれています。中央には小さな池と日時計が設置されています。夏になると池にはスイレンの花が咲き、花卉がピンク色に染まる光景が見事です。

### 広報誌『VERA』定期購読のご案内

詳しくは、本学公式サイトをご覧ください。



### VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

### Web アンケート

新しくなった『VERA』に関するご意見、ご要望をお寄せください。QRコードよりご入力ください。



# VERA

第1号／2022年度

## Contents

### 02 SPECIAL FEATURE

#### 新学長と語らう

東京女子大学のキリスト教の精神と  
リベラル・アーツ

### 05 前学長挨拶 創立の理念とともに

……茂里 一紘

茂里 一紘前学長に贈る言葉 アジアへのまなざし  
……和田 博文

### 06 Career

TWCU OG TALK vol.7……細江 絵梨さん

2021年度 就職決定状況／

今年もやります！夏休み5日間の課題解決型ワークショップ  
「ワタシゴトキャリアラボ」／

2日間の面接対策集中講座を実施！

### 08 Students

はばたけ東女生！……笠松 環、土門 愛実、  
山内 香味、有松 陽花、後藤 玲奈

STUDENT PRESS Vol.4……私のおすすめ授業

### 10 Studies

ゼミの小窓 第6回……大江 洋代

東京女子大学のリベラル・アーツが  
深化します

### 12 TOPICS

東京純心女子中学校・高等学校、  
国府台女子学院高等部、恵泉女学園中学・  
高等学校との高大連携協定の締結について／  
高大連携協定先との取り組み／

『東京女子大学同窓会の100年』刊行／

第5回東京女子大学ビジネス・プランニング・  
コンテスト報告／

第6回東京女子大学ビジネス・プランニング・  
コンテスト募集要項

### 14 NEWS

2022年度事業計画および予算の概要

……安藤 由紀美／

2023年度現代教養学部 一般選抜・

総合型選抜入試日程／ご支援へのお礼／

新任教員紹介／新任評議員

同窓会からのお知らせ



2022年6月30日発行

東京女子大学

発行：東京女子大学 編集：広報委員会

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 TEL: 03-5382-6476 (広報課)

公式サイト

